

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700133		
法人名	特定非営利活動法人 太良の里		
事業所名	特定非営利活動法人 グループホーム 太良の里		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐2491番地1		
自己評価作成日	令和5年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年2月8日	外部評価確定日	令和5年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>四季折々の木々や花に囲まれた自然豊かな環境、また自宅で過ごしているような生活空間で、人と人との温かい関わり合いを楽しんでいただきながら、お一人お一人のニーズに合った支援を受けてゆっくと安心して過ごしていただけるグループホーム運営を目指しています。細やかに日々の健康状態を把握しつつ、機能訓練やレクリエーション活動を通してADLの低下を抑えたり、施設の畑で栽培された新鮮な旬の野菜や果物を召し上がっていただいたりしながら健康的な生活をサポートさせていただいています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の広い敷地内には、散歩道が整備され、その周囲は四季折々の花が植えられており、外出も思う様に出来ない今、利用者は自然の移り変わりを感じながら散歩したり、お茶や食事をする事もできている。近所の方の立ち寄りもあり、「地域の憩いの場」にもなっていた。コロナ禍で現在は控えることばかりだが、地域にとっても事業所は拠り所であり、コロナ収束を待ち望んでいる。隣接の敷地内に避難所を建設し、高潮、大雨、台風、地震等の自然災害発生にも備えている。食料や飲料水も備蓄され、寝具も用意されている。非常時には、近所の方の受け入れも可能である。これからも地域との関わり合いが深まることが期待できる。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	太良の里の理念「ゆっくりと自分らしくそして共に生きる」をもとに、施設としての年間目標、月の目標を職員全体で確認しつつ、職員一人一人が個々に月の目標を掲げて、より具体的に施設理念の実践に努めている。	「ゆっくりと自分らしくそして共に生きる」の理念は地域と共に生活することを念頭におき、開設時に作成されたものを今も継続している。年間目標とともに、職員が目につくところに掲示し、また職員会議などで唱和し周知している。職員会議の折には利用者ごとに、理念を振り返る機会もつづけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止のため、地域住民と関わる機会を減らさざるを得ない状況は続いている。しかし今年度は感染対策を十分に図った上で町内コーラスグループによるコンサートを実施することができ、入居者に大変喜んでいただいた。	地域の自治会にも加入し、隣接する理事長宅や近くに住む職員もいて地域の情報は必ず届いている。通常であれば地域の浮立や奉仕作業などに参加し、近隣住民との交流には様々な機会があったがコロナ禍で全てを自粛している。現在は控えることばかりだが、地域にとっても事業所は拠り所であり、コロナ収束を待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	太良の里敷地内及び隣接地には専用の広い花だん果樹園野菜畑があり、入居者の他に地域の方々にも開放し、憩いの場として利用して頂いている。また職員は認知症サポーター研修に積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止のため毎回外部の方を招くことは難しかったが、4月10月の2回は太良町役場の職員や地域住民の方にも参加していただいた。出された意見は職員全体に周知し、運営や介護の改善につなげることができた。	コロナ禍のため毎回集合による会議は出来なかったが、利用者状況や行事等の資料は各メンバーに郵送されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種手続きや入居に関する問い合わせ、相談など、日常的に連絡を取り合っている。行政との関係を良好に保ちながら、入居者への対応や施設運営がスムーズにいこう努めている。	利用者の認定更新や入居についての相談など関わりが多い。相談事は言い易く、電話や直接出向いたりすることもあり、日頃から協力関係は出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという姿勢で日々の介護を実践している。常に入居者の安全、生命を守ることを第一とし、職員間で情報交換しながらよりよい介護の方法を検討して様々な工夫を尽くしている。	職員はスピーチロックを含めての拘束の無い支援について意識をもち支援している。毎月のミーティングで勉強会を行い、また年6回行われる近隣市町の12グループホームの交流会でテーマとして取り上げられているため、参加した職員は周知・勉強会の役割も担っている。玄関は施錠はなく職員の見守りによって安全な生活ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学習を通して、職員の虐待行為防止への意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度について、研修会に参加するなどして学習しているが、制度の活用が必要な事例は今のところ挙がっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居/退居の際、利用者家族に対して不安、疑問点が生じないように十分な説明を行い理解/納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がサービスに関する意見、要望を職員に伝えることができるよう、「みなさまの声」の用紙を設置している。また小まめに入居者の状態を家族に電話連絡し、要望等を聞くよう心掛けている。	コロナ禍で面会制限していることもあり、直接会話が出来る機会は減っているが、機会があれば何でも気軽に話してもらえよう努めている。毎月の利用料明細書にホーム便りや、各々の近況を知らせるメッセージも添えている。なかなか来られない家族や遠方に住む家族へはケアプランを送付したときに、意見をもらうこともある。出された意見は職員で話し合い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例職員ミーティング及び日々の朝礼ミーティング時に運営に関する意見、要望、提案につき聴取し、検討した上で運営に活かすようにしている。	毎月のミーティングには管理者も含め休みの職員もできるだけ参加し、19時から一時間余りで開催している。利用者毎のカンファレンスを行い、研修報告を兼ねた勉強会も同時に行っている。また、毎月、職員自らが掲げた個人目標に対し自己評価も行っている。管理者は職員にとって働きやすい環境であることを心掛け、現場の声に耳を傾けている。提案があったコロナ感染予防でオゾン発生器を購入し職員の休憩場所にも設置している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	令和4年1月より社会労務士と契約を結び環境整備をさらに整えている。運営者や管理者が運営や管理について職員の声に耳を傾け、より良い運営に反映させている。職員の勤務体制や臨機応変な対応につき管理者と職員間の話し合いの納得の上で調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム交流会(12事業所)の年6回の集まりを利用し、管理者および職員が各種研修に参加する等して介護力アップを図っている。また、ミーティング等で業務に必要な情報を周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	太良町内は下記の福祉施設があり運営者職員はそれぞれ連帯を取り交流している。太良町福祉協議会・太良町包括支援センター・高齢福祉施設・光風荘・太良病院居宅介護支援センター・高齢者保健施設・ふるさとの森・太良町社協・宅老所おおうら鹿島太良塩田グループホーム交流会。平成21年6月より合計12事業所による交流会を発足させ下記内容につき月1回開催している。運営部会・管理者部会・介護者部会・ケアマネジャー部会		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを立てる際には十分な聴き取りを行い、要望をしっかりと把握するようにしている。入居者の気持ちに寄り添い、傾聴の姿勢を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には、家族との十分な話し合いの時間を設けている。家族の困り感、要望をしっかりと受け止め、安心して入居させることができるよう家族に対しても支援する態度で向き合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時本人/家族の実情の要望を元にして可能な限り対応している。また事業所として対応不可のサービスについては他福祉施設と連携を取り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する一される」一方的な縦の関係の見直し「一緒に過ごし、学び、支えあう」関係作りをしながら介護に当たるよう、職員にはミーティング等で指導している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には日常的に連絡を入れて入居者の状況を伝え、今現在の支援の必要について理解していただくよう心掛け、施設側の一方的な介護になってしまわないよう注意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人との音信が絶えない様、状況に応じ、ライン、電話、ハガキ、手紙を書く事などを勧めるなど、これ迄の関係が保たれる様、支援している。	これまでの生活歴や人間関係の把握は入居時に本人や家族より聞き取り把握するように努めている。普段の会話の中でも馴染みの場所や知人の思い出話をしていることもあり、要望があれば電話などで取次ぎしている。コロナ禍で外出は限られているが、家族から要望があれば感染状況など確認し、お寺参りなど行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の経歴、趣味、性格等を把握した上で、個々に合った活動を提供し、入居者同士が関わり合いながら楽しく過ごせるよう心掛けている。また、フロアで過ごす際の席等も配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居の場合には、転居先(自宅家族病院)へ訪問し可能な範囲でその後の生活状況をフォローするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が入居者一人ひとりの思いや意向について関心を持ち、入居者の側に立った対応ができるよう心掛けている。	利用者やゆっくり寄り添うことで想いに気付くことに繋がると考え実践している。これまでの暮らしの把握は家族から、今の生活については、日々の会話の中から汲み取るようにしている。発語が少ない利用者には仕草などから汲み取り本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談受け付け時及び入居時に入居希望者(事前入居時)調査表に基き、生活歴、生活環境、これまでの経過などを把握し、以降の生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ひとり一人の健康、精神そして生活状態を観察し記録し、申し送り事項と共に後任者に引き継ぐなど総合的にチームとして把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成の基本方針として「入居希望者調査表」情報をもとに本人、家族、担当ケアマネジャーと協議の上作成し、入居後は本人の意向を折込み見直し(3ヶ月毎)行い家族の同意捺印を頂いている。	本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族には面会時などに思いや意見を聞き反映させるようにしている。実施状況は介護・看護の記録簿等で確認され、それらを基に毎月、ケアマネジャーによるモニタリングも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々細やかな視点で介護記録を残し、引継ぎをしっかりと行った上で介護に当たっている。またそれをもとに、介護計画を見直し、より実態に即した介護を提供できるよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単に介護計画書に記載された介護支援を行った上で、当施設の特性を生かした活動を取り入れながら変化のある共同生活を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティア活動・教育機関・警察・消防署・自治会(老人会)・町役場など地域の皆様に協力して頂きながら運営を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本方針は下記の通りである。 ・主治医 入居までのかかりつけ医とする。 ・上項なき場合、施設の協力医を主治医とする。 ・専門医が必要な場合、主治医の判断で専門医を紹介してもらっている。	事業所の協力医のほか、入居前からのかかりつけ医での医療が継続できるよう支援している。コロナ禍で専門外来も含め往診以外は通院はすべて職員が行っており、適切な医療が継続できるよう支援している。家族には受診後結果報告は行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護暦40年のベテランの看護師が施設に勤務している。看護師の指導のもと介護職員は入居者それぞれの健康状態をはじめ、生活状況を詳細に把握し、的確かつ迅速な受診対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設の各職員は協力医と常時情報交換し、入居者の健康管理や医療活用の支援を得ている。入居者が入院した場合、より短期間に医療が終了し、退院となるよう病院関係者、本人御家族と話し合いを実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師を中心に介護職員一同、重度化傾向に向かう入居者を含め全入居者の健康状態を把握し、家族、訪問看護師、施設間において情報を密にしている。また、入居時に重度化した場合や終末期の在り方について話し合う機会を設けている。	入居契約時に指針の説明を行い確認を行っている。これまでも看取りの経験はあり、希望があれば今後も看取り体制は整っており応えていく。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態発生時の対応マニュアルを作成し、全ての職員が応急手当や初期対応が冷静にかつ適切に実施出来るよう定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設横に避難所を建築し、基礎を1m以上高くして川の氾濫、高潮、津波に対応できる。職員の多数が2～10分で自宅より緊急出動することが可能である。平成22年4月にスプリンクラー設置設備・火災時には、消防署及び職員宅に即自動通報する様体制を整えている。	消防計画に基づいた避難訓練を実施している。火災が発生すると自動的に通報する自動火災報知設備がある。時間帯は昼間に行う夜間想定で、利用者も避難訓練に参加している。職員は消火器等の使い方も承知している。事業所の敷地内に避難所が建てられ、ハザードマップにも示されている自然災害にも対応できるようになった。非常食、飲料水、夜具も必要分を保管し、迅速に避難ができる体制である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員採用時に誓約書を書かせ、また日常勤務時にも教育をして厳守させている。また、パーソン・センタードケアの精神で介護に当たること、入居者の尊厳を守る介護を行うことについて研修する機会を設けている。	近隣市町の12グループホームの交流会で研修会も行われており職員も参加している。人前であからさまに介護したり、誘導はさりげない言葉かけで実践している。また、個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、ホーム便り等への名前や写真掲載には事前に承諾をもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者はそれぞれ意思の表出方法が異なる。認知症の進行した方は判断力、自己表現力は低下しているが適切な対応により発言、意思表示は可能であるため、その方に合った言葉掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で入居者の意向を優先し、その方が心穏やかに安心して生活できるように支援している。フロアに集まってともに活動を楽しむことを喜ばれる方もいれば、自室でゆっくりと過ごすことを好む方もおられるのが現状である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとり一人の個性、希望、生活に応じて髪型や、服装等の身だしなみやおしゃれを個別に支援している。2か月に一度は美容師によるヘアケア、フェイスケアを受ける機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の前準備など個々人の能力に応じ職員と一緒にやっている。野菜の下処理や漬物作り、おやつ作りなど職員とともにやる機会が多い。旬の食べ物に触れることで話題も増え、食欲も増進している様子が見受けられる。	献立は、冷蔵庫の中身や利用者に食べたいものを尋ねながら、当番の職員が考え調理している。園の畑で収穫した野菜が食卓に上がり、利用者の楽しみになっている。職員は、自分で口から食べることの大切さを理解しており、一緒に同じものを食べながら支援している。誕生日は当日、または同月をまとめて祝い、希望する献立と手作りのケーキやデザートも用意される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、食事の様子観察と食事量の記録を行い、健康状態の把握につなげている。義歯の方でも食べやすいものを提供し、食事以外の水分補給も定時で確実にを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、食後のうがい又は歯みがきを実施している。歯みがきの習慣が無かった方が歯みがきが定着化した例もある。3カ月に1度、歯科医の往診により、口腔内のチェックを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全ての入居者に対して職員が見守ったり一部介助をしたりして、トイレでの排泄を誘導している。全居室にポータブルトイレを設置し、体調や歩行状態に合わせて使用できるようにしている。極力オムツの使用をしない方向で支援している。	排泄チェック表を用いて昼間は全員がトイレでの排泄である。そのチェック表からの効果で入居後に使用枚数が改善した例もある。トイレ内は、車椅子や職員が介助に入っても十分な広さである。便座の両脇にある手摺りは立ち座りも助けている。自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を改善するため、食生活を工夫し、適度な運動及び歩行などできるだけ自然排便ができるよう促している。また、医師にも相談しながら、必要に応じて薬も使用しつつ、排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者がくつろいだ気分で時間を気にせず入浴出来るように心掛けている。また、羞恥心及び恐怖心に対する個々人の状況に応じて十分配慮している。入浴の日時や時間帯は、施設の運営上の都合で設定している。	入浴は基本的に週2日の午前中としているが、風呂の準備は毎日できており、希望があればいつでも入浴できる。拒む人はなく、一人ずつ、ゆっくりと入ってもらっている。入浴しない日でも下着肌着の交換は毎日行い清潔保持に努めている。浴室は広く、浴槽には、利用者が安全に入浴できるよう手摺りが多く取り付けられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整え、日中は様々な活動に取り組めるようにすることで安眠できるように配慮している。日中、落ち着いて過ごせるよう精神的なフォローをしたり、可能な範囲で動的な活動を設定したりすることで、安眠が促されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に薬の目的、副作用、用法、用量については共有、理解している。心身上の変化や異状があった場合医師、家族に連絡。以上の記録は「身体介護記録表」に詳細に記入し、フォローしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味、志向を把握し、レクリエーションなどに反映させている。コロナ禍にあって外出の機会が少なくなっている分、施設内での楽しみの時間を増やすよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会は減っているが、車中からの紅葉狩りや花見などする機会を設けている。また近隣の自然散策など感染リスクの低い活動は可能な範囲で取り入れている。施設の庭での昼食会、お茶会なども行い良い気分転換になっている。	事業所敷地内に広い庭の散歩コースがあり、手入れが行き届いた庭には季節ごとに花が一面に咲くよう植えられている。コロナ禍で外出する機会が少なくなったが、利用者にとって散歩は外出する機会でもあり、春になるとサクランボの花が咲きまた実がついたころは収穫ができることに利用者の楽しみとなっている。コロナが収束すればまたドライブなど計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、金銭の管理は施設で行っているが、入居者の希望、能力に応じ、一部お金を所持したり使用出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の要望に合わせて、自宅や親戚に電話を使ってやり取りができるよう支援している。また、携帯電話を所持し、日常的に活用している方も複数おられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは完全なバリアフリーですべり止め、手摺りが設置され安全な生活空間の確保、又採光、通風についても空調機、換気扇の設置の他自然採光、通風にも配慮し居心地よく過ごしていただいている。大きな窓やベランダからは四季折々の木々や花々をいつも眺めることができる。	広いリビングは高い天井から射し込む自然光で明るい。静かで、外からの無用な雑音も聞こえない。テーブルの座席は車いす使用の方を中心に考えられている。ひな人形が飾られ季節感が感じられる。窓を開けての換気もきちんと行われ、また、手が触れる場所の消毒も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごす居室の他、談笑するリビング、和室そしてベランダ、又敷地内には花だん雑木林があり、複数人で談笑できる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた家具や生活用品、装飾品等自由に持ち込みむことができ、自分らしく安心して過ごせる場所として利用してもらっている。	居室に持ち込みの制限はない。居心地良く過ごしてもらえるよう配慮している。寝具は自宅からの持ち込みで、シーツ等のリネンは週一回の交換で業者に手配されている。利用者のそれぞれの入り口には暖簾があり表札には花が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は完全なバリアフリーと共に全場所にすべり止め及び手摺を設置している。職員の見守りの上、それぞれが好きなことをして過ごせるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		コロナ対策	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	コロナ対策	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない